

第 114 回例会（どなたもご参加歓迎）

ポーランド名作映画ビデオ鑑賞&交流会 2025

『イーダ』 *Ida* 2013 | 82 分

ポーランド/デンマーク/フランス/イギリス

第 87 回 (2015) アカデミー賞外国語映画賞
ワルシャワ国際映画祭グランプリなど受賞多数



2025. **3/19** (水)

18:30~ 入場無料

札幌エルプラザ 4F 中研修室 (北 8 西 3)

予約(推奨)お問合せ先 ☎080-4071-0956 (安藤)

✉ hokkaidopolandca@gmail.com



パヴェウ・パヴリコフスキ監督 (1957~)

オックスフォード大学で文学と哲学を専攻、のち英国などでドキュメンタリーを製作、その後劇映画や脚本に進出し欧米で高い評価を受ける。代表作は初めて母国でメガホンを取った本作のほか『イリュージョン』2011、『COLD WAR あの歌、2つの心』2018 カンヌ映画祭監督賞 など



アカデミー賞授賞式で
photo: Lucy Nicholson
REUTERS / Forum

お話：坂尻昌平（さかじり・まさひら）映画研究者。早稲田大学大学院に学ぶ。共編著『ジャック・タチ』エスクァイアマガジンジャパン 1999、『ジャック・タチの映画宇宙: Jacques Tati』同 2003、『世界映画大事典』日本図書センター 2008、『淡島千景～女優というプリズム』青弓社 2009、『渋谷実～巨匠にして異端』水声社 2020

1962年のポーランド。孤児として修道院で育てられた18歳のアンナは、院長から修道女の誓いを立てる前に唯一の肉親である叔母ヴァンダに会うように言われる。ヴァンダを訪ねたアンナは、自分の本名がイーダでユダヤ人であること、亡き両親はどこに埋められているのか分からないことを知らされる。

イーダは出自の秘密を知るためヴァンダと旅に出て、戦時中に両親を匿っていたシモンを訪ねる。ヴァンダは幼い息子を姉でイーダの母であるルージャに預けたが、一家とともに殺されていた。イーダのもとをシモンの息子フェリクスが訪れる。彼は老い先短い父を安らかに眠らせてくれるならルージャらを埋めた場所を教えると約束し、埋葬場所を掘り起こす。そして生まれたばかりでユダヤ人とは気づかれないイーダを神父に託したと告白する。イーダとヴァンダは遺骨を故郷の墓に再埋葬する。

イーダは修道女として生きていかねばならないはずだが、ヴァンダは…。イーダは旅の途中で知り

合ったサクソ奏者の青年リスと再会し2人は結ばれる。リスはイーダに結婚を申し込むが…

第二次大戦中には少数ながらイェドヴァブネ事件(1941)などポーランド人によるユダヤ人虐殺事件があり、スターリン時代末期には自国民を厳しく罰したポーランド女性検察官などがいた。本作はそうした負の歴史に目をつぶらず公平に描いた点に特徴がある。また、モノクロ/スタンダードの洗練された構図と素晴らしい撮影、詩的な映像の水準の高さは息をのむほどだ。台詞や俳優の演技・カメラの動きはミニマルで無駄がない。カトリック、ユダヤ人、ホロコースト、スターリン主義、ジャズというポーランドの特性が見事にマッチした作品といえる。

イーダ役のチュシェブホフスカは演技初経験とは思えぬ見事な演技を見せた。これは修道院以外知らない少女が旅を通して成長してゆく教養小説でもある。

(池田光良、運営委員)

